

## 藤樹先生座像制作と

### 現在の私の妄想

弘部 誠

昭和五十四年、小生二十九歳の時、写真の藤樹先生座像を制作。動機については、以前「松下亀太郎先生追悼集」に寄稿しましたように、「近江の先覚者シリーズ7」の「特別展中江藤樹」開催時の県立琵琶湖文化館での松下亀太郎先生の講演を聴いたことが出発点でした。

次の年の昭和五十五年にブロンズ（銅）像として、藤樹書院に置かれることとなりました。もう三十四年前となります。



当時、彫刻表現とともに考証した点は、書院蔵掛け軸の藤樹先生肖像は、絵画としての表現上、お顔の方向と体の向きを変えてあり、それを

立体化のなかで全面的に正面向きに表現し直すこと。次に、江戸時代の中国絵画の影響による人物表現、例えば、やや釣り目の表現を抑えること。また、先生が喘息の持病があったことから、やや前かがみにすること。そして、刀を売って酒を買い、商売をされたことから、刀をより短いものにするなどでした。

この像制作後、等身大の藤樹先生座像を作り始めましたが、別の土地への我が家の建て替えがあり、粘土原型の移動が困難で、やむなく壊すことに。幻の等身座像となっ

てしまいました。けれども、行く行くは、藤樹先生の生涯における節となる場面のイメージを、彫刻として形象化したいと思っています。

ちなみに、自分なりに印象に残っている藤樹先生像は、もちろん玉林寺にある石本暁海氏作の木像、そして、彫刻家・森大造氏の木像（琵琶湖文化館所蔵）である。2つの作品とも、藤樹先生の真摯な人柄から発せられるエネルギーが感じられる名品です。完成度の点から、本庄小学校の石像もよいと思います。

### シリーズ③ 「伝え継ぐ藤樹先生」

また、私が教員として初めて赴任したころ、用務で訪れた有名な豊郷小学校の校舎（当時）玄関の入ってすぐ右手に、藤樹先生座像が置かれていました。湖東の教育現場にも藤樹先生とその像が大切にされてきたことに深く感動したものでした。

さて、藤樹先生座像制作以後、関連する制作を依頼されることになりました。木村光徳先生のレリーフ（中江藤樹記念館）、松本義徳先生レリーフ（安曇川中学校体育館玄関）、藤樹賞記念品の藤樹先生レリーフです。浅学な小生にとっては誠にもつたいないことですが、光栄なことでした。

最近では、差し出がましいことなのですが、熊沢蕃山が、毎年、亡くなる前まで維持修理費として藤樹書院に私費を出していたことにヒントを得て、小ぶりの藤樹先生座像を作つて良知館などで販売してもらい、収益の何割かを公益財団法人藤樹書院に自動的に入るようになればいいなど、ずいぶん勝手な妄想を抱いています。

（藤樹書院だより）

藤樹先生のご命日に当たる九月二十五日（木）午後二時より、書院にて儒式祭典が執り行われます。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

（連絡先 藤樹書院〇七四〇・三二一・四一五六）

### 「藤樹像を求めて」①

松本孝太郎先生から、「日野小学校に、藤樹像がある」とのお話を聞きし、八月二十日に川越会長と高橋理事（日野町長と同級生）と共に、日野町に向かいました。

まず訪れた日野小学校（北川昌美校長）は、創立百四十年を超える伝統校で、同窓会で維持管理されている多くの老庭木に包まれた落ち着いた学校でした。その校庭の中央部に、藤樹先生の銅像が立派な台座の上に建てられていました。

この銅像は、当校創立百周年に古稀を迎えられた高田徳左衛門さん（大正十年卒業）から寄贈されたものです。今から四十年以上も前のことでした。この台座の正面には『永遠の師表 近江聖人中江藤樹先生』と、大きく書かれていました。



さらに驚いたことに、和室には「致良知」の額が掲げられているとのこと……。

（次号に続きます。三田村治夫）